

竹内正先生略歴

- 大正14年2月 鳥取県境港市外江町に生まれる
- 昭和18年4月 第六高等学校文科甲類入学
- 昭和19年9月 召集により陸軍二等兵（後に甲種幹部候補生）として兵役に服す
（昭和20年9月まで）
- 昭和20年3月 第六高等学校文科甲類卒業
- 昭和20年4月 京都大学法学部入学
- 昭和23年9月 京都大学法学部卒業
- 昭和24年5月 京都市議会事務局勤務
- 昭和24年9月 京都大学大学院（旧制）入学（昭和27年12月まで在籍）
- 昭和25年10月 島根大学助手（文理学部）
- 昭和27年10月 大学設置委員会において講師（刑法）
- 昭和28年1月 島根大学講師（文理学部）
- 昭和31年7月 島根大学助教授（文理学部）
- 昭和36年5月 人権擁護委員（法務省）（昭和45年11月まで）
- 昭和40年7月 島根大学教授（文理学部）
- 昭和43年10月 島根大学文理学部法学科代表・教室主任（昭和45年9月まで）
- 昭和44年5月 島根大学評議員（昭和45年9月まで）
- 昭和48年4月 島根大学文理学部厚生補導長（昭和49年3月まで）
- 昭和50年5月 島根大学評議員（昭和52年5月まで）
- 昭和52年9月 島根県建築審査会委員（現在に至る）
- 昭和53年6月 島根大学教授（法文学部）
- 昭和54年4月 島根大学評議員（昭和55年3月まで）
- 昭和55年4月 島根大学法文学部長（文理学部長兼任）・島根大学評議員（昭和57年3月まで）
- 昭和55年4月 島根県弁護士会懲戒委員会委員（昭和61年3月まで）
- 昭和57年6月 島根大学評議員（現在に至る）
- 昭和63年3月 島根大学定年退官

竹内正先生著作目録

著 書

- | | | |
|-------------|-----|-------|
| 刑事訴訟法講義（共著） | 啓文社 | 昭和34年 |
| 刑法各論講義（共著） | 有斐閣 | 昭和40年 |

刑法概説2 (共著) 有斐閣	昭和42年
同上(新版)(共著) 有斐閣	昭和57年
講義刑法総論(共著) 青林書院新社	昭和55年
刑法と現代社会(共編著) 嵯峨野書院	昭和62年

論文・判例研究

罪刑法定主義の成立 「島根大学論集(人文科学)」第3号	昭和28年
近代的刑法学の発展 —その人間観・国家観を中心に— 「島根大学論集(社会科学)」第1号	昭和30年
最近における治安立法の特徴 島根大学法学会「島大法学」創刊号	昭和30年
刑罰の変遷と社会構造(一) —一つの概観— 「島根大学論集(社会科学)」第2号	昭和31年
死刑問題の反省 島根大学法学会「島大法学」第2号	昭和31年
アルトハウス「キリスト教倫理学の問題としての死刑」 「島根大学論集(社会科学)」第4号	昭和33年
虞犯少年制度の反省 青少年問題研究会「青少年問題叢書」第2集	昭和36年
律における罪刑法定主義的制度的性格 「島根大学論集(人文科学)」第13号	昭和39年
虞犯少年制度 —少年法改正問題に関連して— 大阪矯正管区「矯正教育」第151号	昭和39年
不利益変更禁止の原則 日本刑法学会「刑事訴訟法講座」第3巻(有斐閣)	昭和39年
黙秘権の告知 ジュリスト「刑事訴訟法判例百選」(有斐閣)	昭和40年
律および大赦についての一考察(一) —刑法と国家権力の関係を中心に— 日本刑法学会「刑法雑誌」第14巻第1号(有斐閣)	昭和40年
島根県における村八分の背景(一) —法意識と社会構造の関係を中心に— 島根大学法学会「島大法学」第9・10合併号	昭和40年
刑法改正問題の争点 —国家犯罪をめぐって— 「法律時報」第38巻第7号(日本評論社)	昭和41年
騒動の罪 竹田博士・植田博士還暦祝賀「刑法改正の諸問題」(有斐閣)	昭和42年
共犯と身分 ジュリスト「刑法の判例」(有斐閣)	昭和42年
業務上過失傷害罪と要保護者遺棄致死罪 ジュリスト「交通事故判例百選」 (有斐閣)	昭和43年
公判廷における被告人の自白と「本人の自白」 ジュリスト「憲法判例百選」(新版)(有斐閣)	昭和43年
飲酒酩酊運転の罪と業務上過失傷害罪との関係 ジュリスト「刑法判例百選」(新版)(有斐閣)	昭和45年

いわゆる訴訟詐欺と詐欺罪の成否

- ジュリスト「昭和45年度重要判例解説」(有斐閣) 昭和46年
 生産管理不退去ならず ジュリスト「続刑法判例百選」(有斐閣) 昭和46年
 責任主義 福田平・大塚仁編「演習刑法総論」(青林書院新社) 昭和46年
 実行の着手 同 上 昭和46年
 共謀共同正犯 同 上 昭和46年
 死刑存廃論の一考察 全国人権擁護委員連合会「人権通信」第6巻第5号 昭和46年
 騒擾罪の要件 宮沢浩一・大野真義編「判例演習刑法Ⅱ(各論)」
 (世界思想社) 昭和47年
 違法性阻却事由の錯誤 宮沢浩一・大野真義編「判例演習刑法Ⅰ(総論)」
 (世界思想社) 昭和47年
 電車転覆罪 一往来危険罪の結果的加重—
 福田平・大塚仁編「演習刑法各論」(青林書院新社) 昭和47年
 強姦罪 一強姦致死と殺人—
 同 上 昭和47年
 名誉毀損罪 一事実の証明—
 同 上 昭和47年
 控訴審 井戸田侃編「判例演習講座刑事訴訟法」(世界思想社) 昭和47年
 名誉毀損罪における真实性証明の程度
 ジュリスト「昭和46年度重要判例解説」(有斐閣) 昭和47年
 訴因の変更はどのような場合に必要か
 高田卓爾・田宮裕編「演習刑事訴訟法」(青林書院新社) 昭和47年
 共犯者たる共同被告人の供述の証拠能力および証明力
 同 上 昭和47年
 死体遺棄罪の成立要件 ジュリスト「宗教判例百選」(有斐閣) 昭和47年
 偽造免許証の携帯運転と偽造公文書行使罪
 荘子邦雄編「刑法各論判例ハンドブック」(日本評論社) 昭和48年
 物品の月賦購入と詐欺罪 同 上 昭和48年
 騒音と暴行 内藤謙・西原春夫編「刑法を学ぶ」(有斐閣) 昭和48年
 強盗殺人をめぐる擬律 「法学セミナー」第216号(日本評論社) 昭和48年
 公訴時効の問題点 「法学教室」(第2期)第7号(有斐閣) 昭和50年
 公務妨害の罪 「法律時報・改正刑法草案の総合的検討」(日本評論社) 昭和50年
 無免許運転の罪と酒酔い運転の罪 ジュリスト「交通事故判例百選」(第2版)」
 (有斐閣) 昭和50年
 騒擾罪の成否 大塚仁・福田平編「セミナー法学全集・刑法Ⅱ」
 (日本評論社) 昭和50年

公安条例と道交法との関係 一犯罪構成要件の明確性一

	ジュリスト「昭和50年度重要判例解説」(有斐閣)	昭和51年
因果関係	大塚仁編「判例コンメンタール刑法Ⅰ(総則)」(三省堂)	昭和51年
往来ヲ妨害スル罪	大塚仁「判例コンメンタール刑法Ⅱ(各則Ⅰ)」(三省堂)	昭和51年
飲料水ニ関スル罪	同上	昭和51年
実行の着手	「法学セミナー」第256号(日本評論社)	昭和51年
証人尋問	高田卓爾「判例コンメンタール刑事訴訟法」(三省堂)	昭和51年
名誉毀損罪における事実証明	中義勝編「論争刑法」(世界思想社)	昭和51年
横領の罪	福田平ほか編「刑法(4)各論Ⅱ」(有斐閣)	昭和52年
江津事件の問題点	「法律時報」第49巻第3号(日本評論社)	昭和52年
共犯と身分	藤木英雄編「判例と学説・刑法Ⅰ(総論)」(日本評論社)	昭和52年
公訴権濫用問題の一考察(-)	鳥根大学文理学部「島大法学」第26号	昭和52年
道路標識設置の瑕疵と過失犯		
	ジュリスト「刑法判例百選Ⅰ総論」(有斐閣)	昭和53年
有価証券の隠匿と私文書毀棄罪の成否		
	ジュリスト「刑法判例百選Ⅱ各論」(有斐閣)	昭和53年
略式手続	ジュリスト「刑事訴訟法の争点」(有斐閣)	昭和54年
江津事件の現状と問題点	「法律時報」第51巻第11号(日本評論社)	
	(なお鴨良弼編「刑事再審の研究」(昭和55年)成文堂所収)	昭和54年
死刑問題の一考察	法務総合研究所「研修」三七六号	昭和54年
職務質問及び交通の危険防止のため自動車の窓から手を差し入れエンジンキーを回転してスイッチを切り運転を制止した警察官の行為が適法とされた事例	ジュリスト「昭和54年度重要判例解説」(有斐閣)	昭和55年
破棄判決の拘束力	別冊法学セミナー「刑事訴訟法」(日本評論社)	昭和55年
控訴審の構造	同上	昭和55年
公訴権の濫用	別冊判例タイムズ第七号「刑事訴訟法の理論と実務」 (判例タイムズ社)	昭和55年
上告理由としての憲法違反	ジュリスト「刑事訴訟法判例百選(第4版)」 (有斐閣)	昭和56年
責任主義	福田平・大塚仁編「演習刑法総論〔新演習法律学講座〕」 (青林書院新社)	昭和58年
共犯からの離脱	ジュリスト「刑法判例百選Ⅰ総論(第2版)」(有斐閣)	昭和59年
法人を被告者とする侮辱罪の成否	「判例時報」第1120号(判例時報社)	昭和59年
共同実行の意思が認められないとして強盗殺人未遂の共同正犯の成立が否定され幫助犯が認められた事例	「判例時報」第1167号(判例時報社)	昭和60年

易燃物の管理責任者に業務上失火罪及び業務上過失致死罪が成立するとされた事例 「判例時報」第1194号 (判例時報社) 昭和61年

その他

刑事法学辞典 (59項目) (有斐閣) 昭和32年(初版), 昭和37年(増補版)
 体系刑法事典 (9項目) (青林書院新社) 昭和41年
 教唆犯 福田平・大塚仁編「ワークブック刑法」 (有斐閣) 昭和47年
 従犯 同 上 昭和47年
 横領罪 同 上 昭和47年
 証人尋問 高田卓爾「法学セミナー基本法コンメンタール・刑事訴訟法」
 (日本評論社) 昭和48年
 押収・搜索・検証 高田卓爾・小野慶二編「刑事訴訟法の基礎」
 (青林書院新社) 昭和50年
 身体検査 同 上 昭和50年
 責任能力 西原春夫編「判例刑法I」 (日本評論社) 昭和50年
 古典学派と近代学派 福田平・大塚仁編「刑法の基礎」 (青林書院新社) 昭和50年
 刑罰法規と法益の保護 同 上 昭和50年
 罪刑法定主義の現代的意義 同 上 昭和50年
 類推解釈と拡張解釈 同 上 昭和50年
 奄美大島との間の密輸出(行為)と限時法 同 上 昭和50年
 詐欺罪における財産的処分行為 同 上 昭和50年
 無賃乗車と詐欺罪 同 上 昭和50年
 訴訟詐欺 同 上 昭和50年
 相当対価の支払と詐欺罪の成否 同 上 昭和50年
 権利行使と恐喝罪 同 上 昭和50年
 刑法の意義 島根大学法学研究会編「現代法学入門」 (第一法規出版社) 昭和57年
 罪刑法定主義 同 上 昭和57年
 古典学派と近代学派の刑法理論 同 上 昭和57年
 犯罪の意義と一般的成立要件 同 上 昭和57年
 犯罪の態様 同 上 昭和57年
 判例辞典 (2項目) (六法出版社) 昭和58年
 法令解釈事典 (3項目) (株式会社ぎょうせい) 昭和61年
 解説「瀧川幸辰・新版刑法講話」 (日本評論社) 昭和62年